



今後の事業展開について

2026年4月24日

株式会社ツインバード 証券コード：6897

再掲) 2026年2月期 通期決算 損益概況

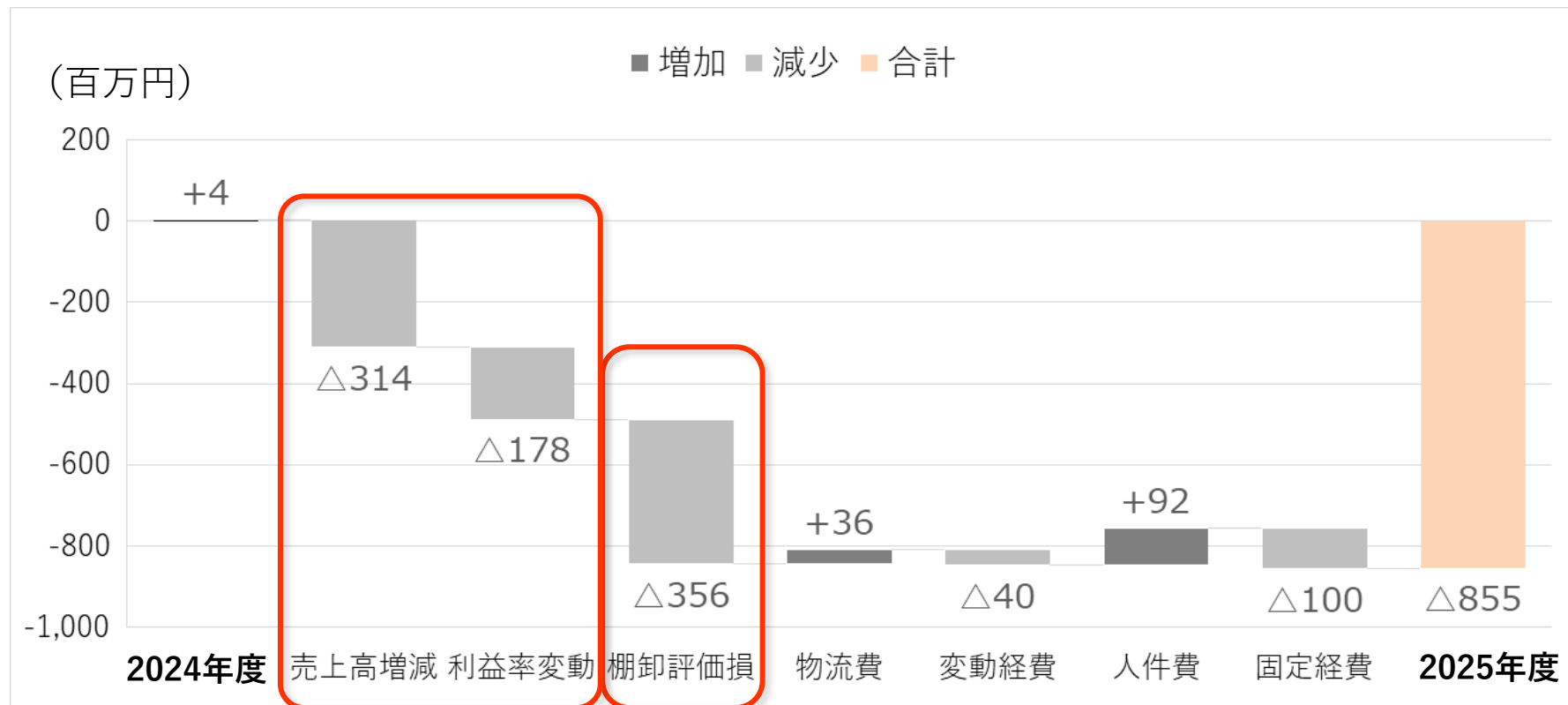
単位：百万円	2025年度	2024年度		(参考)	※
	通期 実績	通期 実績	前期比 差額 増減率	2025年度 通期 業績予想	
売上高	8,998	10,056	△1,057 -10.5%	10,500	
売上総利益	2,133	2,980	△846 -28.4%		
売上高比	23.7%	29.6%	-5.9pt		
販売費及び一般管理費	2,989	2,975	13 0.5%		
売上高比	33.2%	29.6%	3.6pt		
営業利益又は営業損失 (△)	△855	4	△860 -	150	
売上高比	-9.5%	0.0%	-	1.4%	
経常利益又は経常損失 (△)	△896	42	△939 -	120	
当期純利益又は当期純損失 (△)	△1,218	△101	△1,116 -	100	

※通期業績予想は2025年4月14日公表数値

2025年度 業績振返りと営業損失の要因 (グラフは再掲)

家庭用冷蔵庫・洗濯機の売上減少、および全社 事業構造改革費用の計上(減損処理)により、営業損失 855百万円を計上。

2026年2月期 営業利益：前期比増減



2026年度 業績計画および黒字化実現に向けた主要な具体的施策

(1) 収益性の高い販路や商品へのシフト、 (2) 不採算事業の縮小、 (3) 固定費の変動費化

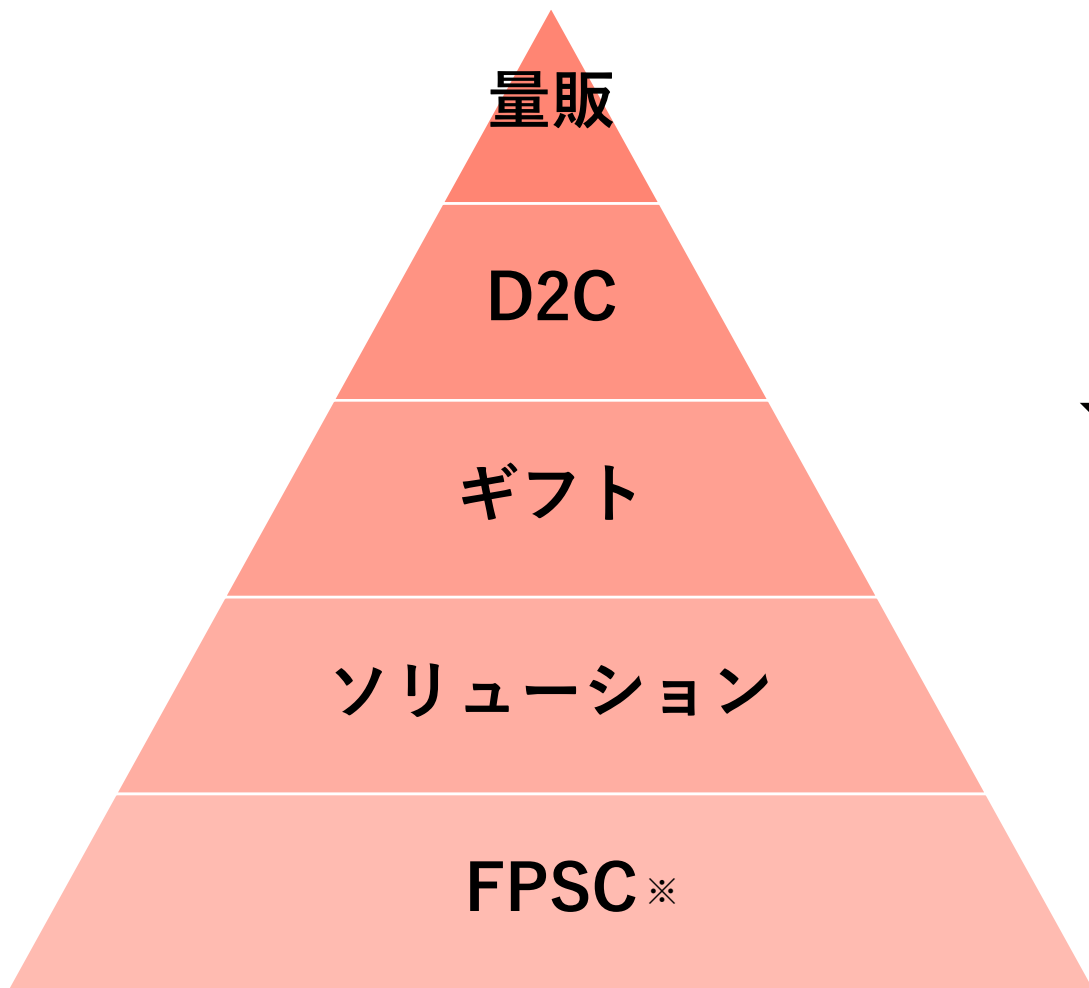
単位：百万円	2025年度	2026年度
	通期実績	通期業績予想
売上高	8,998	9,600
売上総利益	2,133	2,900
売上高比	23.7%	30.2%
販売費及び一般管理費	2,989	2,800
売上高比	33.2%	29.1%
営業利益	△855	100
売上高比	-9.5%	1.0%
当期純利益	△1,218	45

26年度 営業利益の主な改善項目と金額

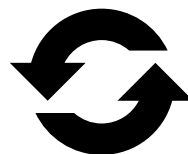
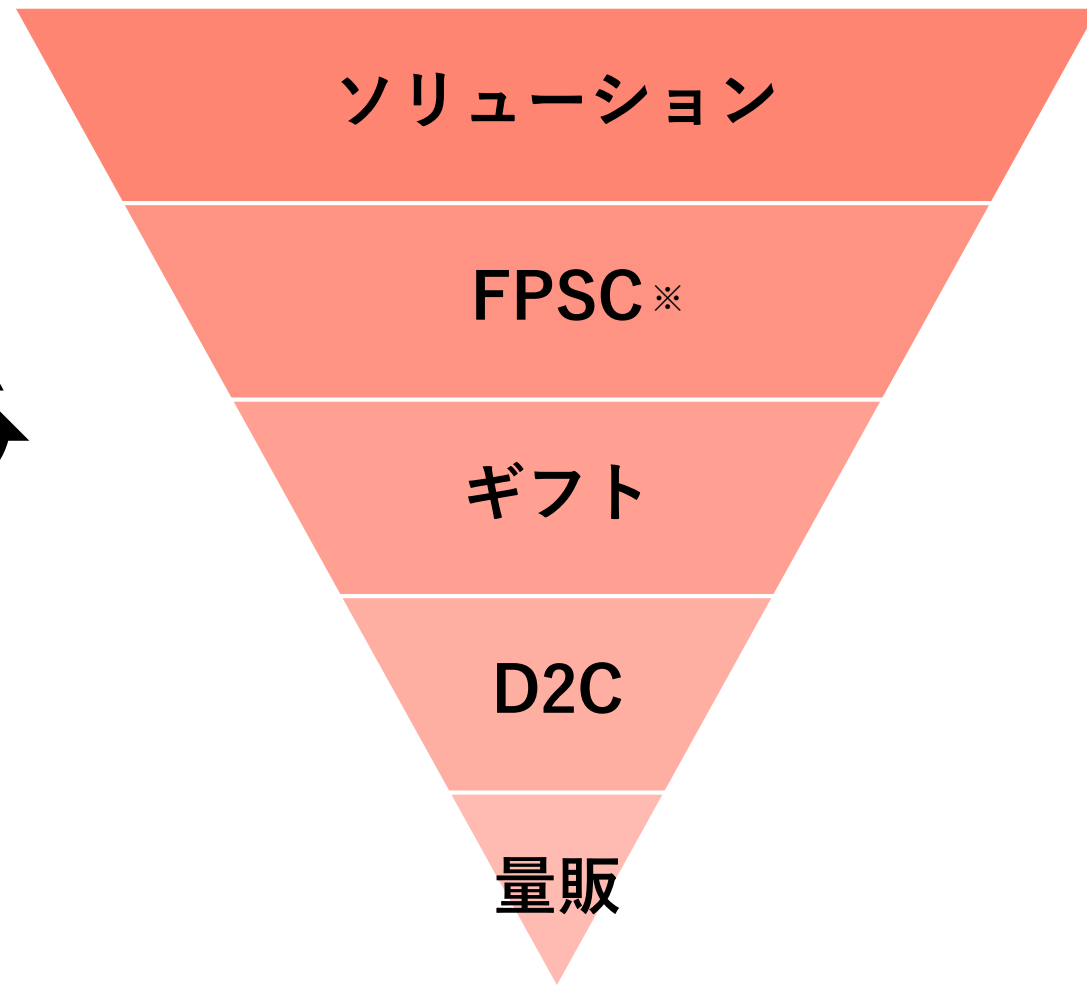
①増収効果	166百万円
②在庫評価損計上による負担減	290百万円
③値引き抑制	280百万円
④物流費減	48百万円
⑤固定資産減損による減価償却費減	60百万円
⑥業務効率化による人件費最適化	140百万円

収益性の高い販路へのシフト

2025年 B2C 重点型の営業戦略



2026年 B2B 重点型の営業戦略



収益性の高い商品へのシフト：業務用 小型冷蔵庫の新商品開発と新規販路開拓

インバウンド需要の回復を背景に拡大するホテル市場、また、高い信頼性が求められる医療機関に対し、収益性の高い業務用小型冷蔵庫の新製品開発と新規販路開拓を推進。



TR-241 病院用小型冷蔵庫



TR-V32 ホテル用小型冷蔵庫

収益性の高い商品へのシフト：FPSC搭載の-80℃ 可搬式小型フリーザーボックス 新製品

従来製品 SC-BV25(+2～+8℃)および、SC-DF25(-40～+10℃)に加えて、今後成長する医薬バイオ分野に向けて -80℃ 可搬式25Lフリーザーボックス(-86～-20℃)の新製品を今秋発売予定。



収益性の高い商品へのシフト：「匠プレミアム」匠クラフトドライヤーの新規販路開拓

日本美容界を牽引するトップクリエイターであるPEEK-A-BOO美容室の福井達真氏と共同開発した新製品 匠クラフトドライヤーを、新販路として全国の美容室ルートを中心に拡販を進める。

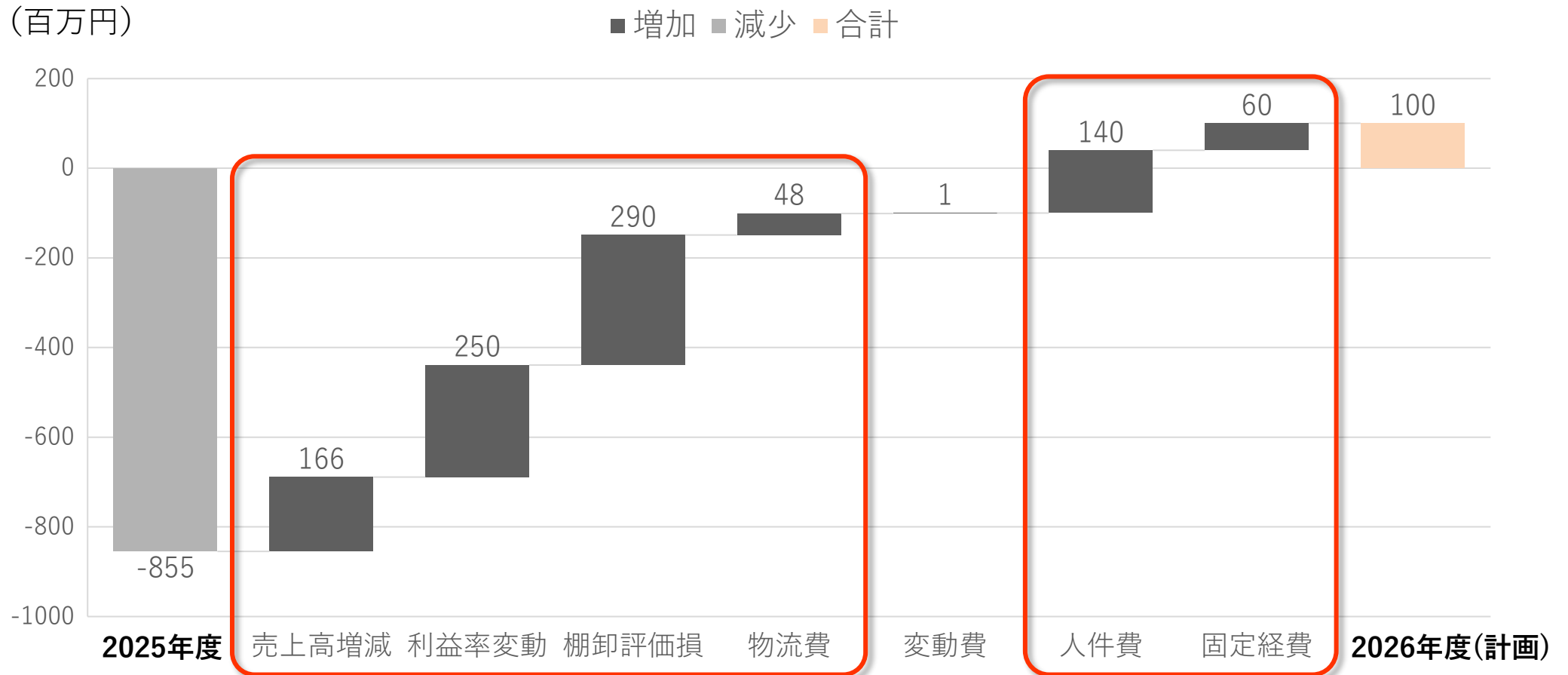


TB-G009
匠クラフトドライヤー

進行期の営業利益の改善内訳

(1) 収益性の高い販路や商品へのシフト、 (2) 不採算事業の縮小、 (3) 固定費の変動費化

2027年2月期 営業利益：前期比増減



再掲) 2027年2月期 通期業績予想

- 2027年2月期は、**収益性重視の事業構造へ転換を図る重要な一年と位置付けて、抜本的な構造改革を実行し黒字化の実現**に向けて「利益重視の経営の徹底」「生産性の向上」「ローコストオペレーションの徹底」「成長事業への投資」を推進
- 家電製品事業は、「匠プレミアム」製品の拡充や匠クラフトドライヤーの美容室ルート拡販、韓国での売場拡大を推進。加えて、ホテル・医療向け業務用小型冷蔵庫や住宅設備ルートでの浴室テレビを強化。半導体装置向け金属床材やPB製品の納品も拡大。チャンネル戦略の再設計により家庭用冷蔵庫・洗濯機の事業縮小による減収を補完し収益性の改善を図る。
- FPSC事業は、医薬・バイオを重点分野と位置付け、従来の冷凍機のOEM供給ビジネスに加えて、ワクチン用低温冷凍庫の供給実績やWHOが定めるPQS認証を活かし、-80°Cの可搬式小型フリーザーボックスを発売。国内外の展示会出展や新規輸出1万者支援プログラム活用により販路拡大を推進。

単位：百万円	2026年度	2025年度		
	通期 業績予想	通期 実績	差額	前期比 増減率
売上高	9,600	8,998	601	6.7%
営業利益	100	△855	955	—
売上高比	1.0%	-9.5%	10.5pt	
経常利益	75	△896	971	—
当期純利益	45	△1,218	1,263	—



決算・IRに関するお問い合わせ先

株式会社ツインバード 取締役最高財務責任者 企画管理本部 本部長 渡邊 桂三 (TEL : 0256-92-6111)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する意見や予測等は、資料作成時点で一般に認識されている経済・社会等の情勢及び、当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されており、その情報の正確性を保証するものではなく、今後予告なしに変更される可能性があります。万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。